



薬局だより

白庭病院
2017年10月



今年もインフルエンザの季節がやってきました。9月に入り、早くもインフルエンザの報告がありました。東京都の小学校では学級閉鎖も報告されています。

季節性インフルエンザは、日本では初冬から春先にかけて毎年流行します。多くは自然に治癒しますが、重症化すると肺炎、気管支炎等を発症し生命に危険が及ぶ場合があります。

インフルエンザにかからないための最大の予防法は、**流行前にインフルエンザのワクチンを接種すること**です。インフルエンザワクチンの接種には、発症予防や、万が一発症しても重症化を防ぐ効果があります。特に高齢者や子供、持病のある方、及びその御家族は、できるだけ受けていただくことをお勧めします。

インフルエンザ予防接種のQ&A

Q1. いつごろ予防接種にいけばよいですか？

A. ワクチン接種後、効果が期待できるまでに約2週間かかります。インフルエンザの本格的な流行は11月下旬から12月上旬から始まるため、**11月中**には予防接種をうけることをお勧めします。

Q2. 去年インフルエンザワクチンを接種したが、今年も予防接種は必要ですか？

A. その年によって流行するインフルエンザウイルスの型が異なり、ワクチンもその年によって流行すると考えられるウイルスに合わせて製造されています。また、ワクチンの効果は接種後5か月程度といわれていますので、毎年接種が必要であると考えられます。

Q3. インフルエンザワクチンの接種回数や量は年齢ごとに変わりますか？

A. 下記のようになります。

(1) 6か月以上3歳未満の方	1回0.25mL	2回接種
(2) 3歳以上13歳未満の方	1回0.5mL	2回接種
(3) 13歳以上の方	1回0.5mL	1回接種

2回接種の場合、免疫の効果を考慮すると4週間間隔をあけることが望ましいとされています。

Q4. はしかや風疹等、他の予防接種と一緒に受けることはできますか？

A. その都度、医療機関で相談してください。

ワクチンには生ワクチンと不活化ワクチンの2種類があります。ワクチンの種類や打つ順番によって、あけなくてはいけない間隔が異なります。

～日常でできるインフルエンザ予防～

インフルエンザは飛沫感染です。飛沫感染とは、咳やくしゃみなどとともにインフルエンザウイルスが小さな飛沫（しぶき）となって空気中に飛び散り、これを周りの人が吸い込むことや、インフルエンザウイルスがついた手で、目や口を触ることで感染します。

- ・咳エチケットを心がける。
→咳やくしゃみが出る時はマスクをする等
- ・手洗いうがいをしっかりする。
(インフルエンザウイルスはアルコールによる手指消毒でも効果があります。)
- ・乾燥を避け、適切な湿度を保つ。
- ・十分な休養とバランスの取れた食事を心がける。
- ・人混みや繁華街への外出を控える。



インフルエンザにかかってしまったときは・・・

インフルエンザの治療薬

①内服薬：タミフル（カプセル・細粒）

投与方法：＜治療＞ 1日2回 5日間服用

＜予防＞ 1日1回 7～10日間服用

★10代の患者には使用しないことが原則です。



②吸入薬：イナビル吸入薬

投与方法：＜治療＞ 1回吸入（10歳以上：2容器、10歳以下：1容器）

＜予防＞ 10歳以上：2容器1回吸入 or 1容器1日1回2日間吸入

10歳以下：1容器1回吸入

③吸入薬：リレンザ吸入

投与方法：＜治療＞1日2回吸入を5日間

＜予防＞1日1回吸入を10日間

④注射薬：ラピアクタ 注

投与方法：＜治療＞1回点滴（重症度によって数日間投与されることもあります。）

＜予防＞適応なし

特徴：内服が困難な方や入院患者さんに使用しやすい。

★インフルエンザ治療薬に関する注意点★

薬との因果関係は不明ですが、使用後に異常行動の報告があるため、使用後は異常行動がないかの観察が必要になってきます。特にタミフルは10代の患者には使用しないことが原則です。

インフルエンザの治療薬は発症後 48 時間以内に使用しないと、効果が期待できません。おかしいなと思ったら、早めに医療機関を受診してください。